

## 「拓く」力を

閉塞感、格差、分断といった言葉が、私たちの今の社会のあり方を形容するものとして盛んに用いられるようになったのは、コロナ禍に始まったことではありません。しかし、コロナ禍以降、いっそう強く、こうした言葉が説得力を持つようになっていっているのではないのでしょうか。

2020年に始まったコロナ禍で、私たちを悩ませた問題はたくさんありましたが、一番辛かったのは、日本に入国できない状態に置かれる留学生がたくさんいたことでした。このあいさつ文を執筆している今も、入国できないまま、遠隔での学びと、自分自身の研究のための調査を続けている院生がいます。

2008年に設立された国際日本学部、2012年に設立された国際日本学研究所は、国境を越えて人・モノ・情報が行き交うグローバル化時代において、日本と世界の関係を、常に変化する流動性の中で、動的に捉えようという問題意識の中で生まれました。

そこには、国境というものの「障壁」としての力が弱まっている、という認識があったように思います。しかし、コロナ禍のような世界的な感染症の拡大は、国境というものの「閉ざす」力の強さを再認識させることになったように思います。感染拡大そのものはその「閉ざす」力をもってしても止められなかったにもかかわらず、少なくとも人の移動は厳然と制限されました。これは、多くの留学生を受け入れ、また、国外の大学・研究機関との交流を進めていこうとしている国際日本学研究所にとって、深刻な課題となりました。

国際日本学研究所長 宮本 大人

国境は、なくなっているわけではない。コロナ禍以前からすでに世界各地で問題化していたことですが、急激なグローバル化がもたらす、それぞれの国や地域の経済・社会・文化の、混交、融合、変容は、いつもスムーズに友好的に進むわけではなく、様々な衝突や摩擦を招き、それに対する反発をもたらすこともあります。

こうした状況の中で、国際日本学研究所は、その真価を問われていると思います。日本語を研究し、日本語を母語としない人々に教える方法を研究すること。英語を研究し、英語を母語としない人々に教える方法を研究すること。異文化間の壁を乗り越え、多文化共生社会を実現する方法を研究すること。国境を越える経済活動や情報メディアの働きを研究すること。世界に広がる日本のポップカルチャーのあり方を研究すること。人間が形作ってきた様々な文化とその歴史、そしてそれを支える思想について研究すること。これらすべてが、今、私たちを改めて、国境の外に、「開く」力につながっているはずです。

すべての学問は、まだ答えの出ない問いに、先人の積み重ねてきた知の助けを借りながら、自ら答えを出そうとする営みです。まだ人が踏み入っていない世界を切り拓く力が、求められます。「拓」という漢字は、手と石の組み合わせでできています。目の前に置かれた大きな石のように重い課題を、自らの手で動かしていくイメージを、そこに見出すことができます。視野を開き、新しい世界を「拓く」力。私たちと一緒に、そうした力を身に付けたいと願う皆さんを、お待ちしております。

### 国際日本学研究所の人材養成 その他教育研究上の目的

国際日本学研究所では、国際的視点を持ち世界における日本を深く認識し、その認識に基づき的確に行動できる人間を育成することが重要であるという考えに立脚し、日本の文化及び社会システムを国際的な視点に立ち理解し、異文化及び多様な社会システムを理解するとともに、自らの意思を的確に表現することができる人材の育成を目指します。また、留学生の受入れ、送出しを含めて海外の教育研究機関との交流を活発に行い、本研究所が国際日本学の国際的拠点となるよう研究活動の展開を図っていきます。

### 国際日本学専攻の人材養成 その他教育研究上の目的

国際日本学専攻では、ポップカルチャー研究、日本社会・産業システム研究、多文化共生・異文化間教育研究、日本語学・日本語教育学研究、英語教育学研究、文化・思想研究といった幅広い研究領域をカバーします。博士前期課程では、そうした幅広い視野と高度な専門的知識を有する人材を養成し、研究者に限らず国際的に活躍しうる社会人の養成も目指します。博士後期課程では、それぞれの研究分野の更なる深化を図り、国際日本学の発展に寄与しうる柔軟で堅固な基礎を持つ研究者を養成します。

## 入学者受入方針

## Admission Policy

### 【博士前期課程】

国際日本学研究所博士前期課程の目的は、日本の文化及び社会システムを国際的な視点に立ってよく理解するとともに、異文化や多様な社会システムに対する理解力を持ち、さらに自らの意思を的確に表現できる、国際社会で広く活躍できる主体性を備えた実務者・教育者・研究者等を養成することです。そこで、次のような学生を積極的に受け入れます。

- (1) 国際日本学分野における研究を遂行するのに必要な知識と能力を身に付けることができ、かつそのための努力を惜しまない者。
- (2) 自分自身の問題意識との関係において、従来の学問体系を踏まえて、さらに学際性をもつ研究を行うことを目指す者。
- (3) すでに言語教育に携わっている者、また、公的機関、NPO、NGO、民間企業等の各種団体に属する者をはじめとする社会人で、自己の職業上の体験から、問題の本質を見極めたい、あるいは少しでも実際に役立つことのできる問題解決法を探りたいと希望しており、本研究所を修了した後は、その成果を自己の職業に生かすことを目指す者。
- (4) 自国の文化や社会システムと比較しつつ日本の文化や社会システムについて研究することを旨とする留学生。

以上の求める学生像に基づき、学内選考入学試験、一般入学試験、外国人留学生入学試験、社会人特別入学試験を実施し、これらの資質や意欲を個別または総合的に判断するための入学者選抜を行います。

なお、事前に修得しておくべき知識等の内容・水準は、以下のとおり求めます。

- (1) 国際日本学に関連した研究推進に不可欠な知識と能力。
- (2) 既存の学問分野のみならず新たな研究分野を構築しようとする強い意欲をもつこと。

- (3) 日本文化を理解し、さまざまな言語や表現手法を用いて世界に発信・紹介できる能力。

### 【博士後期課程】

国際日本学研究所博士後期課程においては、日本の文化及び社会システムを国際的な視点に立ってよく理解するとともに、異文化や多様な社会システムに対する理解力を持ち、さらに自らの意思を的確に表現することができる、国際社会で広く活躍できる主体性を備えた人材、とりわけ国際日本学の発展に寄与しうる柔軟で堅固な基礎を持つ研究者を養成することを目的としています。この目的に沿ったような学生を積極的に受け入れます。

- (1) 国際的視野で物事を考えることができる資質や能力を備えた者。
- (2) 自分自身の問題意識との関係において、従来の学問体系を踏まえて、さらに学際性をもつ研究を専門的に行うことを目指す者。
- (3) 本研究所の研究分野に関連する学問分野、または学際的分野において、研究者として自立することができる優れた博士論文を完成させるのに十分な知的能力と計画性を有する者。

以上の求める学生像に基づき、留学生、社会人を区別せず、博士論文作成に必要な能力、資質及び計画性を保持しているかを判断するために、入学者選抜を行います。

なお、事前に修得しておくべき知識等の内容・水準は、以下のとおり求めます。

- (1) さまざまな言語や表現手法を用いて、研究内容を議論し、発表できる能力。
- (2) 自らの追究する研究テーマについて国際日本学との関連性を明確に位置づけ、客観的に理解できる能力。
- (3) 留学生においては、出身国と日本との交流を促進させる強い意欲があること。



国際日本学研究所 Web ページ

明治大学大学院 国際日本学研究所

検索

事務取扱時間 (低層棟3F)

平日 ▶ 09:00~11:30 / 12:30~17:30 土曜日 ▶ 09:00~12:30 電話 ▶ 03-5343-8039 Mail ▶ ggjs@mics.meiji.ac.jp

※休業期間やイベント等により事務取扱時間は変更となる場合があります。

# カリキュラムの特色

## ■ 博士前期課程

博士前期課程のカリキュラムは、主要科目と特修科目の2つの科目区分から構成されます。主要科目は、大学院生が選択した領域の指導教員から2年間にわたり個別指導を受け、自身の知的関心や問題を深める研究演習科目として位置付けています。特修科目は、それぞれの領域を学ぶ上で必要な課題を取り扱う講義科目として位置付けており、必修科目として「国際日本学総合研究」を設置しています。

この「国際日本学総合研究」では、国際日本学研究そのものの理解と本研究科の基本コンセプトに関する共通認識の形成を目的としています。

## ■ 博士後期課程

博士後期課程のカリキュラムは、必修科目と選択必修科目の2つの科目区分から構成されます。必修科目は、大学院生が選択した指導教員から3年間にわたり個別指導を受け、自身の知的関心や問題を深める研究演習科目として位置付けています。選択必修科目は、それぞれの研究テーマを学ぶ上で必要な課題を取り扱う講義科目として位置付けられています。カリキュラム編成に関しては、2つの科目区分からの履修によって、大学院生が選択した研究分野だけでなく関連する他研究分野についても有機的に学習出来るように配慮します。

■ 博士前期課程	
主要科目	特修科目(選択)
ポップカルチャー演習I	ポップカルチャー研究A~I
ポップカルチャー演習II	日本社会・産業システム研究(国際メディア)
ポップカルチャー演習III	日本社会・産業システム研究(情報産業)
ポップカルチャー演習IV	日本社会・産業システム研究(国際知財)
日本社会・産業システム演習I	日本社会・産業システム研究(クリエイティブ産業)
日本社会・産業システム演習II	日本社会・産業システム研究(広告)
日本社会・産業システム演習III	日本社会・産業システム研究(流通A)
日本社会・産業システム演習IV	日本社会・産業システム研究(流通B)
日本社会・産業システム演習V	日本社会・産業システム研究(ものづくり経営A)
国際関係・地域演習I	日本社会・産業システム研究(ものづくり経営B)
多文化共生・異文化間教育演習I	国際関係・地域研究(アフリカ)
多文化共生・異文化間教育演習II	多文化共生・異文化間教育研究(異文化間教育学特論)
多文化共生・異文化間教育演習III	多文化共生・異文化間教育研究(多文化共生特論)
多文化共生・異文化間教育演習IV	多文化共生・異文化間教育研究(多文化共生と地域社会)
日本語学演習I	多文化共生・異文化間教育研究(留学生政策)
日本語教育学演習I	多文化共生・異文化間教育研究(ソーシャルビジネスと多文化共生)
日本語教育学演習II	多文化共生・異文化間教育研究(ダイバーシティと日本社会)
英語教育学演習I	多文化共生・異文化間教育研究(企業とダイバーシティ)
英語教育学演習II	多文化共生・異文化間教育研究(文化間移動と教育)
英語教育学演習III	多文化共生・異文化間教育研究(発達心理学)
英語教育学演習IV	日本語学研究A~D
視覚文化演習I	日本語教育学研究A~E
文化関係・文化変容演習I	英語教育学研究(学習指導要領と指導法)
文化関係・文化変容演習II	英語教育学研究(マテリアル・デベロップメント)
文化関係・文化変容演習III	英語教育学研究(英語教授法)
日本思想演習I	
日本思想演習II	
	特修科目(必修)
	国際日本学総合研究

## ■ 博士後期課程

必修科目	選択必修科目
研究論文指導(ポップカルチャー)	ポップカルチャー特別研究
研究論文指導(社会・情報・国際関係)	社会・情報・国際関係特別研究
研究論文指導(言語・国際交流)	言語・国際交流特別研究
研究論文指導(文化・思想)	文化・思想特別研究

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

## 教育課程編成・実施方針

## Curriculum Policy

### 【博士前期課程】

国際日本学研究所博士前期課程の教育理念・目標である、「日本の文化及び社会システムを国際的な視点に立ってよく理解するとともに、異文化や多様な社会システムに対する理解力をもち、さらに自らの意思を的確に表現できる、国際社会で広く活躍できる主体性を備えた実務者・教育者・研究者等の養成」を実現するために、以下に示す方針に基づきカリキュラムを編成します。

- 人文科学と社会科学を相互浸透的に認識し、その認識に基づき的確に行動し得る能力を構築するために、本研究科の研究領域として、ポップカルチャー研究、日本社会・産業システム研究、多文化共生・異文化間教育研究、日本語学・日本語教育学研究、英語教育学研究、文化・思想研究の6つの研究領域を設置します。これら6つの研究領域の研究を概観し、それぞれの研究方法を理解するために、研究領域横断的に展開する必修科目等を設置し、自身の研究領域とは異なる領域への理解を深め、視野を広げ、自身の研究領域を相対化します。また、大学院生が主体となった研究発表会や修士学位論文の「中間報告会」を複数回実施し、様々な研究領域に属する教員や大学院生から助言を受け、ともに議論する機会を設けます。
- 日本研究と国際研究を複合的に捉え、国際的な視野で物事を考え、表現することができる資質や能力を習得するため、海外の大学等と協定を締結し、訪問・招聘事業を行うと共に、交換留学生を積極的に受け入れます。
- 現実社会や様々な学術分野で生じている新たな課題を発見し、その課題解決方法を探る資質や能力を習得するため、学外機関や各界の実務者・教育者・研究者を招いて行う講義に加え、多様なフィールドワーク等により、理論と実践を組み合わせた研究を行います。
- これらの方針を踏まえ、学生が主体性を持って課題を広く深く考察し、それについて独自の知見を提示することが可能となるように、修士学位論文作成に向けて個別指導を行います。

### 【博士後期課程】

国際日本学研究所博士後期課程では、国際日本学の発展に寄与しうる柔軟で堅固な基礎を持つ研究者を養成するため、自らの関心にしたがって学際的・国際的に学ぶことができる環境を整えています。博士後期課程で学ぶ研究テーマは、より具体的で高度なものとなり、それに伴って、より広い視野と深い知識が必要となります。カリキュラム編成に関わる教育・研究の特色は以下のとおりです。

- 人文科学と社会科学の諸分野を相互に関係付け、学際的に研究を展開できる資質や能力を向上させるために、本研究科の研究分野として、ポップカルチャー、社会・情報・国際関係、言語・国際交流、文化・思想の4つの研究分野を設置します。研究分野の区分なく相互に学び、学術交流を図るために、大学院生が主体となった研究発表会を実施し、自らの研究を高めることを目指します。また、博士学位論文の作成過程では、「中間報告会」を複数回実施し、様々な研究分野の教員や大学院生からの助言を受け、ともに議論する機会を設けます。さらに、学会発表や学術論文等の執筆の指導を通して、学術界での活動を支援します。
- 国際的な視野を養い、世界に通用する学術的に高い水準の研究成果を発信することができる能力を習得するため、海外の大学等と協定を締結し、訪問・招聘事業、国際シンポジウム等の国際的学術交流の機会を設けると共に、博士学位を有する研究員を積極的に受け入れ、大学院生との共同研究発表会を展開していきます。
- 日本社会、国際社会や様々な学術分野で生じている新たな課題の深層を探究し、その課題解決に貢献する資質や能力を習得するため、国内外の研究教育機関との連携や、各界の専門家との協働等を通じ、研究成果を社会へ還元できるよう、理論と実践を組み合わせた研究を行います。
- これらの方針を踏まえ、博士学位論文作成に向けて、研究に必要な知見を体系的に身に付け、独創的な研究成果を提示し、各研究分野の発展に寄与するように、研究指導グループの下、個別指導を行います。

## 博士前期課程 6つの研究領域

博士前期課程では、日本の文化および社会システムを国際的な視野を持ってよく理解するとともに、異文化や多様な社会システムに対する理解を持ち、さらに自らの意思を言葉で明確に表現することができる、国際社会で広く活躍する力のある実務者・教育者・研究者を養成することを目指しています。

01

### ポップカルチャー研究領域 日本の先端文化、マンガ・アニメ・ゲーム

マンガ・アニメ・ゲーム・特撮に代表される日本のポップカルチャーの一翼の、文化・産業両面の歴史的な発展過程や現状、それらの国内外での受容や、ジェンダーとの関わり、さらには同人誌即売会や「おたく文化」の秋葉原への集中に見受けられるような、特定のスタイルやテ

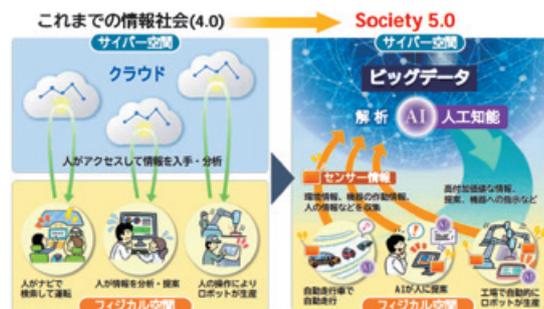
イストの発生と、それに基づくコミュニティや場の形成などに目を向けます。また、サブカルチャーとみなされてきたものに大きくまたがるそれら文化のアーカイブ構築や、保存・運用に関する実践的研究を行います。



「おたく：人格＝空間＝都市」展  
(ヴェネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展日本館)

02

### 日本社会・産業システム研究領域 日本の社会・産業システムの特質・問題点を探究!



出典：Society 5.0 - 内閣府より

近年、ICT(情報通信技術)やAI(人工知能)を筆頭とするデジタルテクノロジーの革新と進歩によって、人々の暮らしは大きく変わっています。そしてまた、企業活動はますます高度化・複雑化し、社会の仕組みも多様化の様相を呈しています。この研究領域では、日本における消費行動や企業活動、産業構造、そしてその総体としての社会システムのダイナミズム、すなわちその変化や動態を研究します。より具体的には組織の在り方と企業文化、日本の経営やものづくり、日本の流通システム、広告、情報産業およびクリエイティブ産業などを対象として、実践的・理論的な諸問題を考察します。

03

### 多文化共生・異文化間教育研究領域 ダイバーシティが社会を変える!

この領域では、多様な人々が共に生きる社会づくりについて研究します。

グローバル化の進展の中で、外国からの労働者や留学生そして移民など多様な文化背景を有する人々が増加しています。また、地域社会や学校、大学あるいは企業における多様性(個性、ジェンダー、障がい等)もより重視されるようになりました。

本領域では、そうした変化がもたらす課題を研究します。外国人に関わる課題、ダイバーシティ(ジェンダー、障がい、世代など)、地域における多様な主体の協働のあり方、多様性から知を生み出す教育および学習環境デザイン/テクノロジー活用、異文化体験が人間の成長・発達にどのように影響するか、多文化共生を目指す教育の実践とは何かなどが、研究の問いになります。



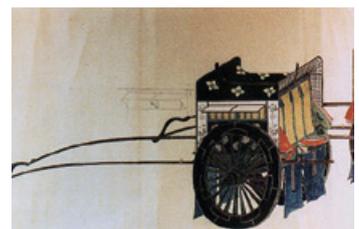
04

### 日本語学・日本語教育学研究領域 「日本語」を携え、世界へ

日本語を研究対象とする「日本語学」の分野では、日本語を歴史的に捉える通時的研究と、現代語など時代を限定してその時代の日本語を捉える共時的研究が可能です。どちらの場合でも、日本語の姿を文字、語彙、文法、文章、運用、認識の仕方などの側面から解明します。

日本語を外国語として教えるための研究をする「日本

語教育学」の分野では、日本語に関する言語学的な知見と他の言語との対照に基づいて、学習者にとって日本語のどのような側面が習得しにくいのかを解明し、どのようにすれば学習者が自然な日本語を効率的に習得できるようになるのかを追究します。



写真出典：山口仲美『平安朝「元氣印」列伝』掲載の口絵写真より

雅やかな昔の日本の乗り物「牛車」。これに乗ると、慣れない人は「車酔い」をした。はてさて、「牛車」「車酔い」の言葉はいつから使われたのか？ 物や認識の仕方に関わる「言葉」を追究することは、日本文化を究めることに連なります。

## 05

## 英語教育学研究領域

## 英語教育は科学だ！理論を学び、実践に活かそう

母語は無意識で習得できるのに、なぜ第2言語を習得するのは難しいのでしょうか。どうすれば効果的な英語教育を行うことができるのでしょうか。その答えを得るためには、応用言語学、社会言語学、心理言語学、認知言語学などの言語学の方針はもとより、言語政策やメディア

研究、脳科学などさまざまなアプローチが可能です。その意味で、英語教育は学際的な分野です。最新の理論や知見、研究方法を学び、教育現場で実践できる力をつけましょう。



写真：「グループワークをするフィンランドの小学生」最近接発達領域論とは、「子どもは、大人やより能力がある人の scaffolding を得て、一人で解決出来なかった問題が解決できる状態となる」という考え方である。つまり人は、他者調整（他の人の助けや協力）を得て、やがて自己調整（自律）の道筋をたどるのである。それを具現化しているのがフィンランドの教育である。

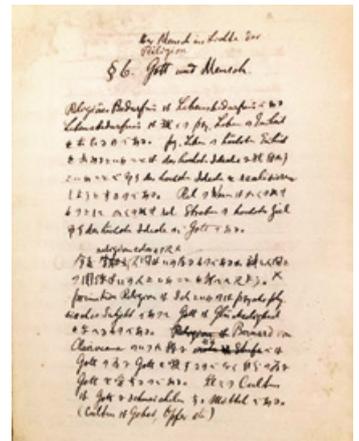
## 06

## 文化・思想研究領域

## 文化・思想から日本と世界を知る

日本のことを知るにしても、世界の他の地域のことを知るにしても、そこに生きる人々がどのような文化を持ち、どのようなことを考えてきたのかという視角は欠かせません。この領域では、過去から現在へと至る世界各地の文化や思想について、幅広い視点から研究していくこと

を目指します。文献資料や有形・無形の文化財を知的資源として活用していくための調査・分析技術を習得し、さらに、その外側と内側に広がっている文化や思想にアプローチしていきます。



写真：西田幾多郎の宗教学講義ノート（『西田幾多郎全集』別巻、岩波書店、2020年より）1913年9月からおこなわれた京都帝国大学での「宗教学普通講義」のためのノートであると推定される。世界各地の文化や思想を視野に入れて、独自の宗教学論が展開されている。写真のページは、半分近くがドイツ語で書かれている。

## 博士後期課程 教育課程編成の基本方針

博士後期課程では、博士前期課程における教育研究を基盤としつつ、より広く深い研究を行うことを目指すべく、独自のカリキュラム編成を採ります。このため、博士前期課程における研究領域の区分をなくし、学生が自らの関心に従って自由に領域を超えて学ぶことが出来る環境を整えます。

博士後期課程で学ぶ学生の研究テーマは、より特殊で具体的なものとなりますが、それに伴って、より広い研究領域の知識が必要不可欠となるからです。

指導教員のもとでの論文作成が、大学院生の研究生生活の中心になるという点では、博士前期課程と博士後期課程の間に違いはありません。

## 学位授与方針

## Diploma Policy

## 【博士前期課程】

国際日本学研究所博士前期課程は、日本の文化及び社会システムを国際的な視点に立てよく理解するとともに、異文化や多様な社会システムに対する理解力を持ち、さらに自らの意思を的確に表現できる、国際社会で広く活躍できる主体性を備えた実務者・教育者・研究者等を養成することを目的としています。

この目的を踏まえ、本研究科の定める修了要件を満たし、かつ、学業成績ならびに修士学位論文から、以下に示す資質や能力を備えたと認められる者に対して修士（国際日本学）の学位を授与します。

- 1) 人文科学と社会科学を相互浸透的に捉え、国際日本学として研究できる資質や能力。
- 2) 日本研究と国際研究を複合的に捉え、国際的視野で物事を考え、表現することができる資質や能力。
- 3) 現実社会や様々な学術分野で生じている新たな課題を発見し、その解決方法を探る資質や能力。
- 4) 課題を広く深く考察し、それについて独自の知見を提示する資質や能力。

## 【博士後期課程】

国際日本学研究所博士後期課程は、日本の文化及び社会システムを国際的な視点に立てよく理解するとともに、異文化や多様な社会システムに対する理解力を持ち、さらに自らの意思を的確に表現することができる、国際社会で広く活躍できる主体性を備えた人材、とりわけ国際日本学の発展に寄与する柔軟で堅固な基礎を持つ研究者を養成することを目的としています。

この目的を踏まえ、本研究科の定める修了要件を満たし、学業成績及び博士学位論文審査に合格し、以下に示す資質や能力を備えたと認められる者に対し博士（国際日本学）の学位を授与します。

- 1) 人文科学と社会科学の諸分野を相互に関係付け、学際的に研究を展開できる資質や能力。
- 2) 国際的視野で物事を考え、国際的場面水準で表現することができる資質や能力。
- 3) 日本社会、国際社会や様々な学術分野で生じている新たな課題の深層を探究し、その課題解決に貢献する資質や能力。
- 4) 研究課題について本質を究明し、体系的な知見を持ち、独創的な成果を提示し、学術分野に貢献する資質や能力。

## 院生からのメッセージ

### 博士前期課程

### Master's Program



芹澤 凜香

SERIZAWA Rika

国際日本学専攻  
博士前期課程 2年

### 狭い分野にとどまらない、学際的な環境が魅力

国際日本学研究所の魅力はなんと言っても、その学際的な環境にあると思います。私自身、同期や先輩方との関わりの中で日々様々な刺激を受けています。多様な研究領域を併せ持つ国日研では、自分と近い専門を持つ人だけでなく、全く異なる分野の研究をしている学生とも接する機会が多くあります。分野によって研究対象へのアプローチの仕方や論文の書き方などは大きく異なりますが、このような環境だからこそ、常に新しい視点を取り入れ、自分の研究をブラッシュアップしていくことができるのだと思います。

ときには研究が思うように進まず行き詰まってしまうこともあります。先輩方からの温かいアドバイスや、何より先生からのきめ細かいご指導のおかげで、少しずつ

はあるものの、しかし着実に成長を実感することができています。自分の専門性を高めながら、同時に他分野についても学び広い視野を獲得することができる国日研の環境は、大変恵まれたものだと感じます。皆さんと研究ができる日を、国日研でお待ちしています。

Q 師事している教員は？

A 小谷 瑛輔 教授

小谷ゼミは近代日本文学を中心に扱うゼミナールですが、ゼミ生の専攻は多岐にわたり、落語やテレビドラマ脚本など、狭義の「文学」からは外れるような文化を研究対象としている学生もいます。それぞれの分野の知見を持ち寄りディスカッションをすることで、日々知識の幅の広がりを実感しています。

教員情報 P.180

### 博士前期課程

### Master's Program



馮 瑞閣

FENG Ruige

国際日本学専攻  
博士前期課程 2年

### 開放的な研究の場

国際日本学研究所で、私は形容動詞と名詞の連続性を中心的な視点として日本語の外来語について研究をしています。和語と漢語だけでもかなり言葉的に飽和している日本語において外来語は依然として盛んに使用されていることは、それなりに理由があるのではないかと考え、これについて深掘りしたいと思ったことが進学のきっかけです。入学当初、はじめての研究生生活で先輩とどう付き合うか、どのように研究を進めるべきか等の不安もありましたが、入学して春学期を終えたころには、「そんな余計なことを考えていたのか」という気持ちに変わりました。日本人学生も留学生もみんな集まる国日研の院生室はいつも賑やかで、自分とは研究分野こそ違いますが、「なるほど、その視点だとこんな感じになるのか」と閃いた時もたくさん

ありました。

研究は、多様性のある時代を迎えていると思います。あなたのその考えは、いつかどこかで誰かの役に立つのかもかもしれません。国日研は、そのような一人ひとりの身に潜むポテンシャルを見出してくれる場所です！

Q 師事している教員は？

A 田中 牧郎 教授

田中ゼミでは、主に日本語学の研究が行われています。日本語学という何だか硬い印象を持たれるかもしれませんが、ゼミではそんなことはありません。様々な言語現象に目を向けて考えよう！といった、とにかく柔軟な雰囲気です。日本語とその周辺に興味を持つ人にとってはここが最高と言えるでしょう。

教員情報 P.179

## 2023年度 修士論文テーマ

- ▶ マンガ・アニメ・ゲーム・特撮関連資料とアート作品を並置する企画展示の成り立ちと推移の背景について
- ▶ 中国語圏におけるBL小説出版市場をめぐって —大陸・台湾・香港—
- ▶ BL愛好者のカップリング嗜好のあり方とジェンダー観の関係
- ▶ 「人情」的な物語としての日本の男性アイドルの現在地 —日韓ドキュメンタリー番組のメディア表象の質的比較分析—
- ▶ 高等教育における社会課題に取り組む社会人のキャリア形成のプロセスとその要因 —複線径路・等至性モデルに基づく経験の分析を通して—
- ▶ 異文化の他者と共に学び合う場づくりにおける児童のパフォーマンス —共生をめざすインターネットを活用した異文化間交流学習を事例として—
- ▶ 在日中国人生徒の進路選択に関する考察 —日中両国の学校文化と大学入試制度に着目して—
- ▶ 外国人介護者を対象とする日本語教育における映像コンテンツの活用 —文化の違いに配慮した実践的な日本語指導の観点から—
- ▶ 多文化共生社会の形成に向けた県と市町村の連携の在り方に関する考察 —愛知県、静岡県、群馬県の事例を中心として—

- ▶ Covid-19の「波」に対する報道変容の分析 —第四波から第七波まで—
- ▶ An Investigation of Relationships between English Pronunciation and Motivation in the Case of Japanese EFL Learners
- ▶ Using Digital Textbooks in English Classes and Learner Motivation — From the Perspective of the ARCS Model —
- ▶ The Impacts of Autonomy Support on Students' Motivation for Learning English — Focusing on Three Social Contexts —
- ▶ 向田邦子の自伝的エッセイと虚構性 —『映画ストーリー』編集者時代について—
- ▶ テレビアニメ『進撃の巨人』における独自の「説得力」の構築 —〈空間的情報〉の表現を中心に—
- ▶ 中国の漫画誌『知音漫客』の変遷について
- ▶ ニュース記事における「やさしい日本語」の考察 —NEWS WEB EASYを一例として—
- ▶ 新型コロナ禍における日本の観光地の報道内容に関する研究

修了生からのメッセージ

<p>博士前期課程</p>  <p><b>久保 楨祐野</b> KUBO Mayuno 国際日本専攻 博士前期課程 2023年3月修了</p>	<p style="text-align: center;">Master's Program</p> <h3 style="text-align: center;">“際”の魅力</h3> <p>国際日本学部卒業後、社会の波に揉まれたのち、国際日本学研究科に入学しました。現在は、関西学院大学ライティングセンターにて、研究テーマである「大学生の学びと成長」の実践の機会をいただいています。社会人生活で常に感じていたのは、「個と集団の学びと成長」の重要性でした。働くということはタスクをこなすだけではなく、成果をあげるためには自分自身とチームの成長が求められました。そこから、人はどのように学ぶのか、またその支援などが関心事となり、大学院進学を目指しました。</p> <p>国日研では、自身の専門分野や、研究領域について深く学べたことはもちろん、学際的な環境に身を置けたことも大きな財産でした。興味関心に関わらず知的好奇心を高く持ち、新しいつながりを作っていくという営みはとても刺</p> <p>激になりました。国日研における「異」に対するオープンでウェルカムな姿勢は、現職でも役に立っていますし、今後のキャリアにも活かすことができると確信しています。研究には多くの苦労と困難も伴いますが、自分の可能性を拓く一歩となるでしょう！</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>Q</b> 師事していた教員は？</p> <p>岸研究室では、アクションリサーチに基づいた研究を行います。実際に現場と深く関わりながら、現場の人たちとともに実践と研究をします。特色のひとつは、国内外の学会、学校現場や地域との連携、フィールドワークなどで、たくさんの人とつながり、議論しながら、自身の研究を研鑽していけることです。</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: right;"> <p><b>A</b> 岸 磨貴子 教授</p> </div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <p>教員情報 P.179</p> </div>
--	---

<p>博士後期課程</p>  <p><b>ヤロシュ 島田 むつみ</b> JAROSCH SHIMADA Mutsumi 国際日本専攻 博士後期課程 2023年3月修了</p>	<p style="text-align: center;">Doctoral Program</p> <h3 style="text-align: center;">一歩踏み出せば、世界が広がります</h3> <p>2011年12月、私は明治大学大学院を受験するか否か、悩んでいました。他大学を卒業して20年、今さら大学院に入学したところで、その先の人生はどうか？家庭もあるし、仕事もあるし、このままでも問題ないのに、新しい道に進むことが出来るのだろうか？不安に思いながらも受験し、博士後期課程修了まで10年以上かかりました。博士後期課程で学んでいた間にも、家庭のことで研究を続けられなくなったり、もう投げ出してしまいたいと思うことは何度もありました。それでも続けることが出来たのは、研究者になりたいという思いと、研究そのものの面白さ、そして、恩師の存在でした。いつか研究者になってみたいと言いながら、結局は夢のまま終わるのかな？と思っていましたが、夢のままにしない選択をして良かった。今ならそう言え</p> <p>ます。大学院に入ったから、あるいは修了したから、それだけで人生バラ色になるということはありません。それでも、見える世界は確実に変わります。迷っている方がいらっしやったら、どうぞ明治大学を信じて、一歩を踏み出してみて下さい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <p><b>Q</b> 師事していた教員は？</p> <p>田中先生は日本語研究の第一人者であると同時に、とても信頼できる、あたたかい方です。知識もご経験も豊富なので、どのような研究であれ、広く対応して下さいます。「研究を続けていけば、見える世界が変わる」これは実は田中先生の言葉です。日本語学に興味のある方は、ぜひ田中ゼミの門を叩いてみて下さい。</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: right;"> <p><b>A</b> 田中 牧郎 教授</p> </div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <p>教員情報 P.179</p> </div>
--	---

近年の博士学位授与

課程博士

学位の種類	論文タイトル	授与年度
博士(国際日本学)	Classroom Conversation in Japanese Elementary School English Lessons: A Conversation Analytic Perspective	2020年度
博士(国際日本学)	海外中等教育段階の日本語教育カリキュラムフレームワークの構築—文化間移動の観点から—	2020年度
博士(国際日本学)	Developing Teaching Methodologies to Promote English Learners' Successful Motivated Vocabulary Learning 英語学習者の語彙学習行動改善に資する教育方法の開発	2021年度
博士(国際日本学)	Motivational Effects of Variations in Sequence of Cooperative Learning Activities 異なる協同学習の順番が動機づけにもたらす影響について	2021年度
博士(国際日本学)	新聞における文章の近代化—明治大正期『読売新聞』を中心に—	2022年度
博士(国際日本学)	西谷啓治の「空」の立場における主体	2023年度
博士(国際日本学)	中国語を母語とする日本語学習者の多義和語動詞の習得における母語の影響—「受ける」と「送る」を例に—	2023年度
博士(国際日本学)	戦後の日韓外来語の通時的対照研究	2023年度
博士(国際日本学)	授業場面に生じる「対立」を契機とした共生に関する実証的研究	2023年度
博士(国際日本学)	Fluency Instruction in Elementary School English Education in Japan	2023年度

## 教員一覧

### 1 ポップカルチャー研究領域

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

	<b>藤本 由香里</b> FUJIMOTO Yukari	教授	研究分野	少女マンガの発展過程・マンガの国際比較
	【最終学歴】東京大学 【担当授業科目】ポップカルチャー演習／ポップカルチャー研究A・B 【研究テーマ】少女マンガにおける女性の意識の時代的変化／表現技法の発展史／マンガにおける性別越境表現／マンガの国際比較(流通条件や表現規制・著作権問題を含む) 【主な著書・論文】『私の居場所はどこにあるの?』(朝日文庫・2008年)／『快樂電流』(河出書房新社・1999年)／『少女まんが魂』(白泉社・2000年)／『愛情評論』(文藝春秋・2006年)／『少女マンガの源流としての高橋真琴』(『マンガ研究』vol.11・2007年)			

	<b>宮本 大人</b> MIYAMOTO Hirohito	教授	研究分野	漫画史
	【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】ポップカルチャー演習／ポップカルチャー研究D.I 【研究テーマ】昭和戦前・戦中期における子供向け物語漫画の表現・出版・流通・受容、およびそれに対する統制 【主な著書・論文】『マンガの居場所』(共著・NTT出版・1998年)／『誕生!「手塚治虫」マンガの神様を育てたバック・グラウンド』(共著・朝日ソノラマ・1998年)／『はじめて学ぶ日本の絵本史I』(共著・ミネルヴァ書房・2001年)／『はじめて学ぶ日本の絵本史II』(共著・ミネルヴァ書房・2002年)			

	<b>森川 嘉一郎</b> MORIKAWA Kaichiro	准教授	研究分野	マンガ・アニメ・ゲーム・おたく文化史、同領域のアーカイブ構築と展示運用
	【最終学歴】早稲田大学大学院 【担当授業科目】ポップカルチャー演習／ポップカルチャー研究C 【研究テーマ】おたく文化史／マンガ・アニメ・ゲームのアーカイブ構築と展示運用／趣味(taste)と都市空間 【主な著書・論文】『趣都の誕生 萌える都市アキハバラ』(幻冬舎・2003年)／『おたく: 人格=空間=都市 ヴェネチア・ビエンナーレ第9回国際建築展日本館カタログ』(編著・幻冬舎・2004年)／『MANGA ↔ TOKYO CONCEPT BOOK』(編著・国立新美術館・2018年)／『マンガ・アニメ展のデザイン』(イーストプレス・2024年)			

	<b>氷川 竜介</b> HIKAWA Ryusuke	特任教授	研究分野	日本アニメーション技術研究、文化研究
	【最終学歴】東京工業大学 【担当授業科目】ポップカルチャー演習／ポップカルチャー研究F・G・H 【研究テーマ】日本におけるアニメーション文化発展の歴史と特質を特撮との相関をふくめて研究する 【主な著書・論文】『20年目のザンボット3』(太田出版・1997年)、『細田守の世界——希望と奇跡を生むアニメーション』(祥伝社・2015年)、『日本特撮技術大全』(共著・学研プラス・2016年)、『日本アニメの革新 歴史の転換点となった変化の構造分析』(角川新書・2023年)など			

### 2 日本社会・産業システム研究領域

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

	<b>小笠原 泰</b> OGASAWARA Yasushi	修士(国際経済学) 修士(経営学) 教授	研究分野	無形資本とデジタルテクノロジーと経営・社会
	【最終学歴】シカゴ大学社会科学大学院・経営学大学院 【担当授業科目】日本社会・産業システム(国際知財) 【研究テーマ】グローバル化とデジタルテクノロジーの進歩によるデータを含めて無形資産(知財)が企業経営および国家・社会に与える影響について 【主な著書・論文】『日本型イノベーションのすすめ』日本経済新聞社 2009年／『なんとなく、日本人』PHP新書 2006年／『日本の改革の探究』日本経済新聞社 2003年／『CNCネットワーク革命』東洋経済新報社 2002年			

	<b>呉 在桓</b> OH Jewheon	博士(経済学) 教授	研究分野	ものづくりシステムの国際比較
	【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】日本社会・産業システム演習／日本社会・産業システム研究(ものづくり経営A・B) 【研究テーマ】日本のものづくりシステムの一般化／ものづくり組織能力の国際比較／日本企業のグローバル経営の比較分析 【主な著書・論文】『日中韓 産業競争力構造の実証分析』(編著・創成社・2011年)／『中国における日・韓・台企業の経営比較』(共著・ミネルヴァ書房・2010年)／『ものづくり経営学: 製造業を超える生産思想』(共著・光文社新書・2007年)／『ものづくりの国際経営戦略』(共著・有斐閣・2009年)			

	<b>戸田 裕美子</b> TODA Yumiko	博士(商学) 准教授	研究分野	日本の流通システム
	【最終学歴】慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程 【担当授業科目】日本社会・産業システム演習／日本社会・産業システム研究(流通A・B) 【研究テーマ】日本的流通システムの歴史的分析 【主な著書・論文】戸田裕美子(2023)『日本における総合スーパーの歴史の変遷とGMS概念の再解釈』『明治大学国際日本研究』(明治大学国際日本学部)第15巻第1号, pp. 27-46. / 戸田裕美子(2022)『ナラティブの方法論的諸問題とマーケティング史研究への適用可能性』『マーケティング史研究』(マーケティング史学会)第1巻第2号, pp. 226-235.			

	<b>田中 絵麻</b> TANAKA Ema	博士(学術) 准教授	研究分野	メディア政策論・ICT政策論、コンテンツ産業論
	【担当授業科目】日本社会・産業システム演習／日本社会・産業システム研究(情報産業) 【研究テーマ】AI時代における情報通信産業政策、コンテンツ産業の構造変化、メディア・リテラシーの要件 【主な著書・論文】田中絵麻(2020)『第2章 政権交代による国家AI戦略の継承と変化』『世界のAI戦略 各国が描く未来創造のビジョン』マルチメディア振興センター(編)、明石書店 / 田中絵麻(2020)『ゲーム研究ブックガイド A Casual Revolution』、『ゲーム研究ブックガイド 遊びと人間』『デジタルゲーム研究入門』小林信重編、ミネルヴァ書房			

	<b>小野 雅琴</b> ONO Makoto	博士(商学) 准教授	研究分野	広告論、消費者行動論、マーケティングリサーチ
	【最終学歴】慶應義塾大学大学院 【担当授業科目】日本社会・産業システム(広告) 【研究テーマ】広告等のマーケティング・コミュニケーション情報が消費者の製品評価に与える影響をテーマに、理論モデルを構築し実証する研究 【主な著書・論文】『口コミ発信者に対する扱いは口コミ受信者による推奨製品の忌避に帰着するか』『マーケティング・ジャーナル』38(2) (共著・2018年) / "Impacts of the FoSHU system on food evaluations in Japan," <i>Journal of Consumer Marketing</i> , 32(7) (共著・2015年) / 『マーケティング・メトリクス: マーケティング成果の測定方法』(共訳・ピアソン桐原・2011年) / 『マーケティング・コミュニケーション大辞典』(分担執筆・宣伝会議・2006年)			



## 5 英語教育学研究領域

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

大須賀 直子  
OSUKA Naoko

Ph. D.  
(Linguistics)  
教授

研究分野 中間言語語用論／英語教育／  
第2言語習得



【最終学歴】ランカスター大学大学院 【担当授業科目】英語教育学演習／応用言語学研究(語用論) 【研究テーマ】日本人学習者の語用論的能力についての研究 【主な著書・論文】「Effects of speech acts on learners' pragmatic development in a study abroad context」(「A pragmatic approach to English language teaching and production」 Kazama Shobo, 2019年)／「Development of pragmatic routines by Japanese learners in a study abroad context」(「Current Issues in Intercultural Pragmatics」 John Benjamins, 2017年)

廣森 友人  
HIROMORI Tomohito

博士(国際広  
報メディア)  
教授

研究分野 英語教育学／心理言語学／  
第二言語習得研究



【最終学歴】北海道大学大学院 【担当授業科目】英語教育学演習／英語教育学研究(心理言語学) 【研究テーマ】第二言語学習の心理学。第二言語(英語)を学ぶにはどんな学習方法が効果的なのか、やる気はどうすれば高まるのか。【主な著書・論文】「改訂版 英語学習のメカニズム:第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法」(大修館書店, 2023年)／「英語教育論文執筆ガイドブック」(大修館書店, 2020年)／「「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法」(大修館書店, 2018年)／「Language learning motivation in Japan」(Multilingual Matters, 2013年)

ルーゲン, ブライアンD.  
RUGEN, Brian D.

Ph. D.  
(Education)  
教授

研究分野 Applied Linguistics; TESOL



【最終学歴】ハワイ大学マノア校 【担当授業科目】応用言語学研究(Discourse Analysis)／英語教育学研究(カリキュラムデザイン) 【研究テーマ】Discourse and identity; English language teacher education; curriculum development in TESOL

マクロリン, デヴィッドA.  
McLoughlin David A.

Ed. D.  
准教授

研究分野 Motivation in Second Language Learning /  
Self-regulation of motivation



【最終学歴】エクセター大学大学院 【担当授業科目】応用言語学研究(第2言語習得理論A) 【研究テーマ】Motivation in Second Language Learning 【主な著書・論文】Interest Development and Self-Regulation of Motivation [Single author] In J. Mynard, M. Tamala, & W. Peeters (Eds.), *Supporting learners and educators in developing language learner autonomy* 63-76 (2020) / 2. How Do Self-Directed Learners Keep Going? The Role of Interest in Sustained Learning. [Co-Author] PanSIG Journal 2017, 74-81(2018)

大矢 政徳  
OYA Masanori

博士(学術)  
教授

研究分野 言語学(コーパス言語学、依存文法)



【最終学歴】早稲田大学大学院 【担当授業科目】英語教育学演習／コーパス言語学 【研究テーマ】依存文法の枠組みに基づいた自然言語統語構造の定量的比較対照研究 【主な著書・論文】「依存文法概説」(開拓社, 2022年)／Differences of Mean Dependency Distances of English Essays Written by Learners of Different Proficiency Levels. *Glottometrics* 53 24-41

## 6 文化・思想研究領域

※2024年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

長尾 進  
NAGAO Susumu

教授

研究分野 身体教育学-武道論



【最終学歴】筑波大学大学院修士(体育学) 【担当授業科目】日本思想演習／日本思想研究A・B 【研究テーマ】武道思想史／武道技術史／武道の国際普及 【主な著書・論文】「剣道の文化誌」(単著・日本武道館・2022)／「絵図と写真に見る剣道文化史」(共著・全日本剣道連盟・2014年)／「改訂版剣道と英事典」(共著・全日本剣道連盟・2011年)／「剣道を知る事典」(共著・東京堂出版・2009年)／「武道文化の探求」(共著・不昧堂出版・2003年)／「剣道の歴史」(共著・全日本剣道連盟・2003年)

美濃部 仁  
MINOBE Hitoshi

博士(文学)  
教授

研究分野 哲学、とくに宗教哲学



【最終学歴】京都大学大学院 【担当授業科目】日本思想演習／日本思想研究C・D 【研究テーマ】西田とドイツ観念論における「絶対的なもの」を、とくに「自我」との関係において研究 【主な著書・論文】「西田における絶対無と個」(「西田哲学会年報」17号・2020年)／「実在性の拠り所としての良心と良心を超える立場—1800年前後のフィヒテ」(「理想」697号・2016年)／「「火は火を焼かない」—西谷啓治における「空」と「回互」」(「理想」689号・2012年)

小谷 瑛輔  
KOTANI Eisuke

博士(文学)  
教授

研究分野 日本近現代文学



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】文化関係・文化変容演習／文化関係・文化変容研究(日本近代文学) 【研究テーマ】芥川龍之介の文学／文学理論／文芸批評／近現代日本文化 【主な著書・論文】『小説とは何か? 芥川龍之介を読む』(ひつじ書房・2017年)／『テキスト分析入門』(共著・ひつじ書房・2016年)／『芥川龍之介ハンドブック』(共著・鼎書房・2015年)／『芥川龍之介「俳儒の言葉」』(注釈・文春文庫・2014年)

鵜戸 聡  
UDO Satoshi

博士(学術)  
准教授

研究分野 フランス語圏アラブ=ベルベル文学



【最終学歴】東京大学大学院 【担当授業科目】文化関係・文化変容演習／文化関係・文化変容研究(フランス語圏)A・B 【研究テーマ】アルジェリアを中心とするフランス語圏文学・アラブ文学／欧州におけるイスラームとユマニスム／移民船と航路 【主な著書・論文】『クリティカルワード 文学理論』(共著・フィルムアート社・2020年)／『国民国家と文学』(共著・作品社・2019年)／「小さな文学にとって(世界文学)は必要か?」『文学』第17巻・第5号(岩波書店・2016年)／「東欧の想像力」(共著・松籟社・2016年)

## Q &amp; A

**Q1** 英語の語学能力証明書は、  
何点くらいあれば合格となりますか？

A. 募集要項や研究科ホームページ上で、ご提出いただく語学能力証明書の合格スコアラインを公表しています。各自で事前に内容を確認してください。

**Q2** 語学能力証明書を出願期間内に  
提出できませんが大丈夫ですか？

A. TOEIC®やTOEFL®-iBT等の語学能力証明書は、有効期間に留意し、必ず各期入試の定められた出願締切日までに提出してください。出願期間後の提出は一切受け付けません。受験もできなくなりますので、十分ご注意のうえ、早めの準備をお願いします。

**Q3** 入学に当たって、どの程度の日本語能力を  
要求されますか？

A. 日本の大学・大学院を卒業・修了せず、外国の大学・大学院のみを卒業・修了(見込みを含む)した者は、国際交流基金と日本国際教育支援協会共催の「日本語能力試験」のN1レベルに合格するか、または、日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」の「日本語」科目で、「読解」・「聴解」・「聴読解」の合計が270点以上、「記述」が30点以上を取得することが、入学の条件になります。いずれも入試実施年度ごとに、提出すべき「成績証明書」や「成績通知書」の有効期間が決まっていますので、十分ご注意のうえ、早めの準備をお願いします。有効期間外の書類は無効であり、入学が認められません。詳しくは募集要項をご確認ください。なお、日本の大学・大学院のいずれかを、日本語で授業を受けて、卒業・修了(見込みを含む)した者は免除します。但し、「日本語学、日本語教育学研究領域」を志願する者は、「日本語能力試験」・「日本留学試験」の入学の条件を満たすことが必須となります。

**Q4** 博士前期課程入試の専門科目試験の  
勉強方法を教えてください。

A. 本研究科ホームページの「入学試験向け参考文献等」で、事前に読んでおくことが望ましい参考文献等を紹介しています。ぜひ参照し、受験勉強に役立ててください。

<https://www.meiji.ac.jp/ggjs/bibliography.html>

**Q5** 希望指導教員との事前のコンタクトは  
必要ですか？

A. 国際日本学研究所として、希望指導教員との事前のコンタクトは義務づけおらず、必須ではありません。したがって、教員との事前連絡の仲介等は一切いたしません。ただし、教員によってはメールアドレスを公開しており、自身で事前連絡等が可能な場合もあります。

**Q6** 「研究計画書」の添削指導を  
お願いできますか？

A. 「研究計画書」は出願書類の一つであり、入学試験の公平性を確保する観点からも、「研究計画書」そのものの添削はできません。ご了承ください。ただし、皆さんが希望する研究テーマが、本研究科の教員の専門とマッチングするかといった相談などは可能です。国際日本学研究所が独自に開催する進学相談会などで、ぜひご相談ください。

**Q7** 博士前期課程入学後どんな授業を  
履修するのですか？ 時間割は？

A. 指導教員が担当する演習科目8単位と講義科目2単位、オムニバス講義の「国際日本学総合研究」2単位を含む、30単位以上の修得が必要です。また、当該年度の授業時間割やシラバスは、以下の研究科ホームページ上で公開しています。

<https://www.meiji.ac.jp/ggjs/syllabus.html>